

## 2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 追手門学院中・高等学校 ] 担当教諭名 [ 田橋 知直 ] ( 1年A・B・C組 78名 )

相手国・地域 [ 台湾 ]

海外学校名 [ Chien-Kuo Junior High School ] 担当教諭名 [ Hsiao-Chia Chou ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	英語	Artmile Project	6
	総合的な学習の時間	国際教育	6
	放課後・LHR	Artmile Project	10

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	笑顔と対話でつながる世界
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	国内も世界も、コロナ禍で分断が進んでいるが、オンラインを活用した学びを通して、新たな視点を得ることができる「質の高い教育」を世界に広げていきたい。オンラインだからこそとりわけ、「顔と名前」の見える人と人のつながりが大切である。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
昨年度の参加生徒がユネスコ部(高校生)とコラボして事前学習やプレゼン作成を企画できた。 テーマ学習について、SDGsからではなく、COVID-19から入ることで、より自分事として取り組みをスタートすることができた。	「つながりの大切さ」という、きわめて抽象的な概念の表現にとどまり、協働学習の段階で学んだ SDG3, 4, 8, 9, 11 が表現できなかった。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
自分たちがあまりにも日本のことも世界のことも知らないということを改めて認識できたとともに、調べて「知る」ことの楽しさ、「知った」ことを通して対話することで深まる学びに対する知的好奇心を向上させることができた。少しだけ、世界や国内で起こっていることを自分事として引き寄せることができた。	日常の「種まき」の大切さを実感した。活動の中で、これまでに触れたり考えたりしたことのある内容が多ければ多いほど、海外の学生と接したときに新たに深く考える材料が生まれる。日々の取り組みはその場で効果を発揮するというよりも、後になって振り返った時につながるものであることを再認識した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 9月	7月 ビデオメッセージ 9月 Zoomミーティング(プレゼン)	海外の人とつながったことのない生徒が多く、喜んでた。台湾の生徒の英語のうまさに驚くとともに、少しでも自分の英語が通じることを喜んでた。	英語 総合 放課後
共有 テーマ学習	10月 11月	10月Zoomミーティング(プレゼン) Google Classroom を通してのプレゼンに対するフィードバック交換	同じ問題に対して自分たちとは違うアプローチをしているプレゼンテーションや、自分たちの抱える問題に違う視点からアイデアをもらい、学びが深まった。	英語 総合 放課後
融合 メッセージ作成	11月 12月	Google Classroom を通してのやりとり	学習の中で共感する点が多く、そのためお互いの国の違いよりも、共通点や類似点に自然とフォーカスしていった。	英語 総合 放課後
創造 壁画制作	12月 1月	壁画案の作成と、盛り込んだ内容の説明およびメッセージ交換	突貫作業になってしまった感が否めない。	総合 放課後
評価 振り返り 自己評価	3月	Google Form にて回答、LHR にて共有。相手校にもサマリーを共有した。	非常に満足度が高く、次年度も継続して交流を望む声があがった。	LHR

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	実際に交流することで、ネットで調べた内容が深まったり、誤りであることがわかった。また、外から見た日本の印象に触れることで、自国について考える機会となった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	一つの問題(テーマ)でも、国が違うと考え方や対応も違うのだという、自分の見えているものとは違う世界があり得るということを実感できた。実感するところから、実際にそれを活用するようなどころまで取り組むことはできなかった。
主体的に考え行動する力	4	夏休みの調べ学習からテーマ学習に至るまで、実行委員会の生徒に主導権を持たせて学習を進めさせた。その結果、自分たちで学習を深めたという実感を持っている。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	オンラインでつながれることがわかり、この点での感動や成長を上げる生徒が多かった。一方で、もっと英語が使えれば、より深く学習が進んだという気づきをした生徒も多く、今後の課題ということで4点とした。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	2	壁画に落とし込む段階で、協働学習で深まった内容が反映しきれなかった。